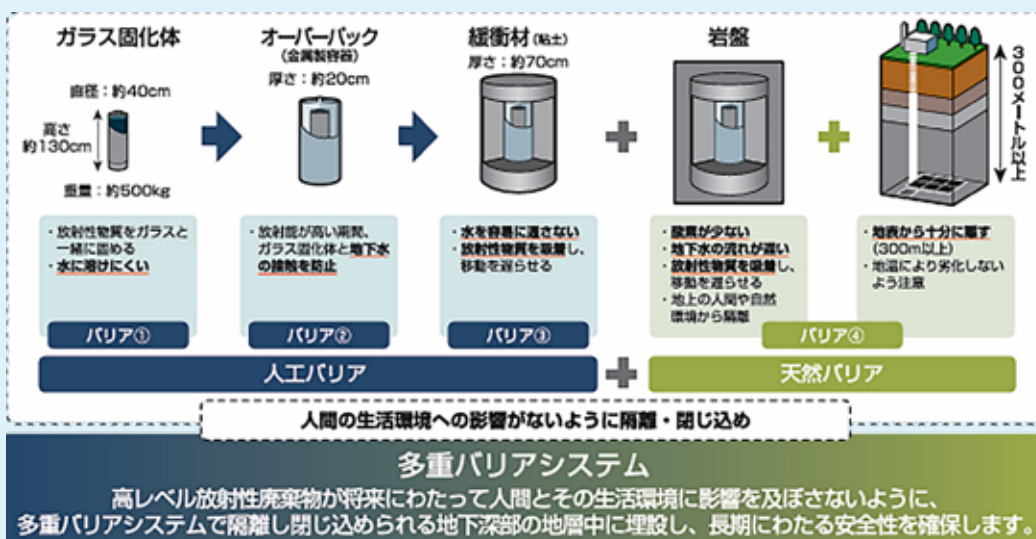




お客様

埋めた人工バリアはどうなるの？

人工バリアのオーバーパックは、少なくとも1,000年間、ガラス固化体が地下水と接触しないように設計されています。仮にオーバーパックが破損して放射性物質が地下水に溶け出した場合でも、その周囲には、水を通しにくく放射性物質を吸着する性質を持つ緩衝材が設置されています。さらに、その外側には岩盤があるため、放射性物質は非常にゆっくりとしか移動しません。



研究紹介！

人工バリア性能確認試験の解体試験 解体・サンプル採取の開始

350m調査坑道の試験坑道4では、人工バリア性能確認試験を実施しています。この試験では、平成26年度に人工バリアを埋設して以来、約12年間にわたり、人工バリアや埋め戻し材周辺で生じる温度、水分、応力、水質などの変化を調査してきました。

令和8年2月からは、約12年ぶりに人工バリアを取り出すためのアクセス坑道の掘削を開始し、5月18日からは埋め戻し材の解体とサンプル採取に着手しました。さらに、夏頃には、いよいよ埋設した人工バリア（緩衝材および模擬オーバーパック）の取り出し作業を開始する予定です。

詳細は、センターホームページをご覧ください。

アクセス坑道整備の様子



サンプリングの様子



センターホームページ

問い合わせ先：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
幌延深地層研究センター：電話・告知端末機：5-2022
ゆめ地創館：電話・告知端末機：5-2772



ゆめ地創館ホームページ

広報・調査等交付金事業